

近藤秀二活動報告 [mail:shujifly@a5.ctktv.ne.jp](mailto:shujifly@a5.ctktv.ne.jp)

事務所：綾瀬市藤川 1-13-20 Tel 0467-77-4702

○ 地域再生・構造改革特区について

「国から地方に」「官から民へ」の構造改革の流れを強化し、地域自らの知恵と工夫により「地域経済の活性化」と「地域雇用の創造」を実現する「地域再生・構造改革特区」を活用することで、地域の自立や活性化の芽が多くでてきています。今までと違い地域で考えたプランを直接内閣府に申請し、認定されることで規制の緩和や事業について利便を図ってもらうもので、1月26日締め切りの構造改革特区102件の申請、地域再生673件(民間93件)と各自治体生き残りを掛けた地域活性化の知恵比べをしています。

今までの行政システムは自治体が県に提案し、さらに国に上げるシステムで、法律や慣例、見解でできなかつたことが大変多くありました。しかしこの制度を使って直接内閣府に提案し認定を受けることで、大幅な法律の規制緩和や利便が図られ、迅速かつ効果的に地域の特色を生かしたまちづくりができるようになりました。

中国の特区として広東省の深セン、珠海、福建省の海南島など5地区、韓国の仁川国際空港や釜山港周辺など5地区がありますが、日本の特区や地域再生はどこでも可能であり、比べられないくらい多くの構造改革が着実に進展しています。

○ 岩手県遠野市の「日本のふるさと再生特区」について

遠野市は「日本のふるさと」としてのまちづくりを進め、交流人口の拡大を図ってきました。しかしながら、観光客数が伸び悩み、また、農業従事者の高齢化などから、今後耕作放棄地の増加が懸念されることから特区を利用し、消防法の特例措置(消防設備を大幅に軽減)を受けた農家民宿の開業や、酒税法の特例措置を受けた農家の自家製による酒類(どぶろくの名はだめということで濁酒という)のもてなし、農業従事者確保のため農地法の特例を受けた、株式会社等による新規就農(EX:建設会社が暇なとき農業をする)を可能にしました。

(アンビリーバボー;今までとても考えられなかつた。)

綾瀬市でもこの1月15日締め切りの「地域再生・構造改革特区」に(交流とにぎわいのあるまちづくり)の名称で初めて申請しました。一自治体が県や各省庁を超えて直接総理大臣に提案することができ、思いが実現できる可能性が出てきたことで、職員活性化になっていくものと考えます。

地方分権の時代にあつて自立が課題であり、市の発展は「地域再生・構造改革特区」をどのように使うかにかかっています。

今まさに「全国自治体善政の競争・平成の闘が原合戦」が始まっています。

★ 地域活性化の知恵比べにみなさんの知恵を貸してください。

- ★ 1月16日(金)日経新聞主催の地域活性化フォーラムに参加
- ★ 次回、もっと驚く「地域再生・構造改革特区」についてお知らせします。

○ 子どもの遊びの祭典開催について

全国子ども会連合会主催の、子どもの遊びの祭典「アクティブ・キッズ・ワールド」が2月28日(土)10～16まで、市民スポーツセンターで開催されます。全国10会場で開催されますが、綾瀬が神奈川大会会場となるもので、ダンボールビルド、キャッチハンマーなげ、ジャンプロープ30人縄跳びなどがインターネットを通じ記録され、全国チャンピオンが競われます。目指せ！全国チャンピオン！！小学生参加しましょう。

なお、昼休みのアトラクションに蓼川、大上の「ダンスキッズ」が特別出演し、ナーウいダンスを踊ります。ぜひ、応援してください！

○ 北の台小学校に英語の本を

JASCO(Japan America Support Committee) 日米サポート委員会の事業の一つとして、英文図書の贈受、学校への配布があります。この事業の実施に当たり蓼川在住の佐藤静男さんと米海軍のハルトンさんの取り計らいで、1月23日に80冊もの英語の絵本を、在厚木基地婦人会のキャシー・ハーストさんから北の台小学校に寄贈していただきました。これからの時代、英語特に英会話は不可欠です。こんごも積極的に事業展開していきます。

会員募集中！ 問い合わせ:近藤 秀二(Tel 78-1544)です。

○ 治安・防犯について

蓼川や大上でこの1月に自動車の窃盗、車上荒らしがありました。綾瀬全般を見ても空き巣が急増しており、日本の安全神話が崩れ、全国的に治安が悪くなっています。不安全、不安心の認識のもと、防犯対策や防犯について話し合うなど、犯罪を起こさない地域づくりに心がけましょう。

○ 地震に備えて (第一話)

昨年7月に宮城県沖地震が、9月に十勝沖地震と、太平洋側で大きな地震が続いて起きました。次は関東で起こるのではと考えるのが自然で、関東大震災から90年を経た今こそ、大震災に備えておくことが大切です。地震に備えて

1、 家庭や隣近所の話し合い

- (1) 家族防災会議で「避難場所」「緊急時の連絡方法」などを話し合う。
- (2) いざという時に助け合えるよう、普段の近所づきあいが大切。

2、 家具の転倒防止、わが家の点検・補強

- (1) タンスなどは、L型金物などで壁にしっかり固定する。
- (2) 食器棚や窓ガラスには、飛散防止フィルムをはっておく。
- (3) わが家の耐震診断・補強をする。

★ 地震がおきたとき——まずは自分の身の安全を確保することです。